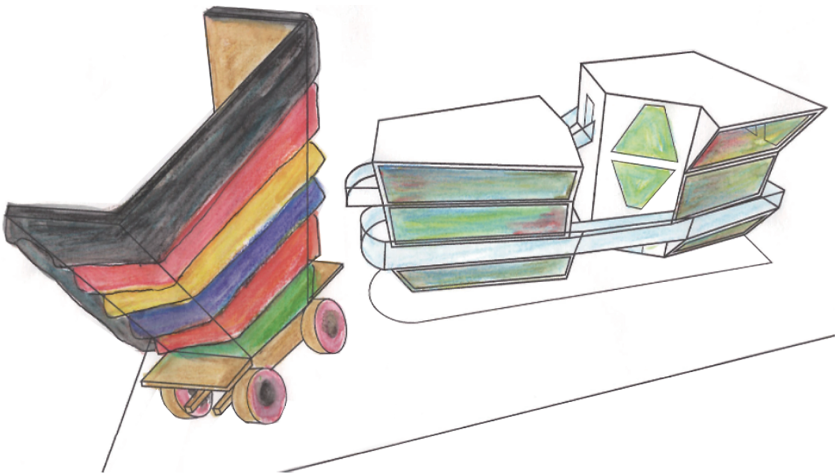
非日常を日常に拡張する

石川県七尾市青柏祭における都市空間の使いこなしから

谷内遥香
建築デザインコース

石川県七尾市で行われる祭り「青柏祭」では高さ約12m、幅約3.6mある巨大な曳山「でか山」が奉納される際、狭い道幅いっぱいに曳行されるでか山を体験するために、観客が軒下や駐車場などの私有地に入り込むことがある。観客は私有地へ入り込みながらも様々な視点場を確保して祭りを体験している。道幅が狭く曲がり角が連なる都市空間と、住民のでか山を楽しんでもらいたいという思いから、私有地への入り込みは成立している。非日常での私有地への入り込みに対する住民の許容を日常へ拡張して考えることで様々な境界を曖昧にする。日常では、住民や住民以外の人、有形無形のモノが相互に行き来する住民の許容力に基づいた分かち合いから生まれる新たなコミュニティーの場であり、非日常では、曲がり角で行うでか山の方向転換である迫力ある辻回しなど青柏祭を楽しむ様々な高さの新たな視点場として機能する場を提案する。



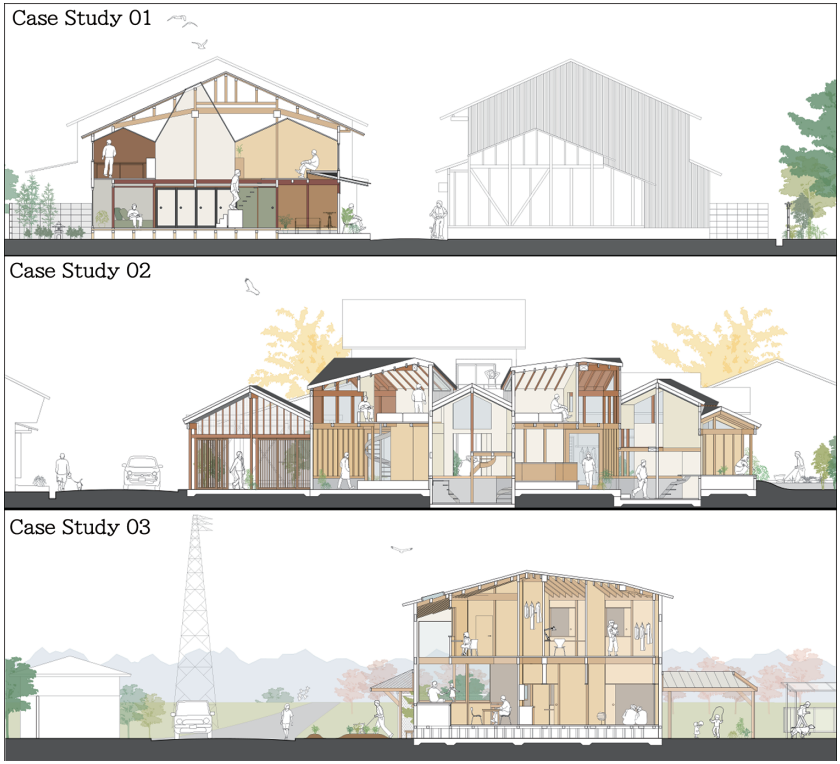
建築デザイン／図面・模型

Connection Design Methods

『繋がりのレシピ』を用いた設計手法の提案

北島陽貴
建築デザインコース

情報化や自然災害、高齢化などの影響で現代社会で頻繁に耳にするようになった「繋がり」という言葉。もともと物理的・非物理的な両面の意味がある言葉だが、急速に変化する社会状況の中でその意味はより複雑になっているのではないだろうか。そんな今だからこそ、曖昧なまま多様されている「繋がり」の建築的な意味を整理することが必要だと感じる。
本研究では、住空間とまちが一対一の関係にある戸建て住宅を対象に、建築家のまちとの繋がりの設計思考の一端を明らかにし、それをもとに『繋がりのレシピ』を開発することを目的とする。また、レシピは設計の際に参照するだけでなく、建主との相互理解を深める媒体として位置付け、それを用いた設計手法を提案する。



建築、コミュニケーションデザイン／レシピカード、図面、模型／A5版、h600×w900×d900mm

記憶する家

亀山文音
建築デザインコース

本来の役割を終えた町家は空き家となった。
解体する話もあったというが、大切に手入れされてきたことで思いがつながり、今の所有者の手に渡った。
そして「農庵」と名付けられ、家は生まれ変わろうとしている。
そんな家が抱える記憶と、それをつなぐ人々の想いをキュレーションする。

キュレーション／企画、空間構成、写真撮影、編集

生業が結ぶ川辺の地縁
射水市新湊地区の街路利用に着目して

北野まつ葉
建築デザインコース

漁業を中心に町が栄えた歴史のある富山県射水市新湊地区。内川と漁船、15本の橋、間口の狭い木造の町屋や番屋が立ち並ぶ美しい町並みを求め、近年では来訪者や移住者の増加が見られる。
昭和中期頃まで、新湊の街路空間では漁作業や買い物、洗濯などの住民による私的な活動が活発に行われ、独自の”おつきあい”によるコミュニティが構築されていた。近年では、内川沿いの歩道空間の整備や来訪者の増加に伴い、内川沿いの公共性が増加し、街路空間での私的な活動が減少、公私の活動の混在が見られる。
住民の街路空間での活動に着目し、来訪者や移住者、新規漁業従事者を巻き込みながら、漁村のおつきあいの継承、新たな地縁を結ぶための場を提案する。

建築デザイン–地域再生計画／副論文／バナー／模型h300×w1300×d1600mm

地域コミュニティを対象としたアート活動の評価手法開発

金石大野芸術計画をケーススタディとして

有原千尋
芸術文化キュレーションコース
アートマネジメント

近年、アートは社会にその領域を拡張している。「地域」と「アート」が出会い混ざりあう「地域コミュニティを対象としたアート活動」は、新たな表現創出や価値観変容など「芸術文化的効果」と、新たな繋がり形成や地域愛着醸成など「社会的効果」を有するアート活動である。しかし一方、その活動効果は数字ではかることが難しく、明確な評価手法や評価軸は確立されていない。本研究では、視覚化や数値化が難しい効果をはかり、運営主体が活動展開・改善への活用や活動価値を伝えるツールとしての手法開発を目的とした(図1参照)。

3つの研究プロセスの実践によって、新たな評価手法の検討・構築および妥当性と有用性の検証を行った(図2参照)。

本研究の成果として、【(1)地域コミュニティを対象としたアート活動には「芸術文化的効果」と「社会的効果」があり、活動評価に必要な観点である】こと、【(2)地域住民の活動参画性の高さと活動効果の高さに関連がある】こと、【(3)開発した評価手法が一定の妥当性や有用性を有している】ことの3点を挙げる。「地域コミュニティを対象としたアート活動」の有する内的価値をはかる評価手法は、活動を客観視するための「ものさし」として、また第三者にアート活動の価値を伝えるための「翻訳ツール」として機能するものであり、今回得られた知見をもとに、より汎用性のある評価手法開発が求められる。

写真1「金石大野芸術計画」の活動風景

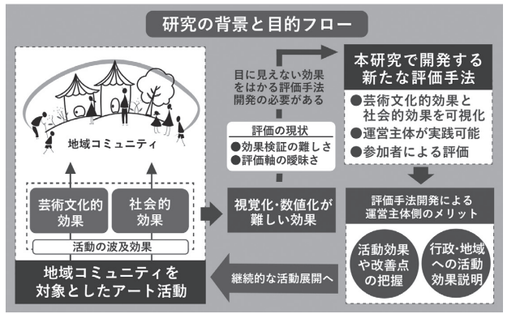


図1 研究背景と目的のフローチャート

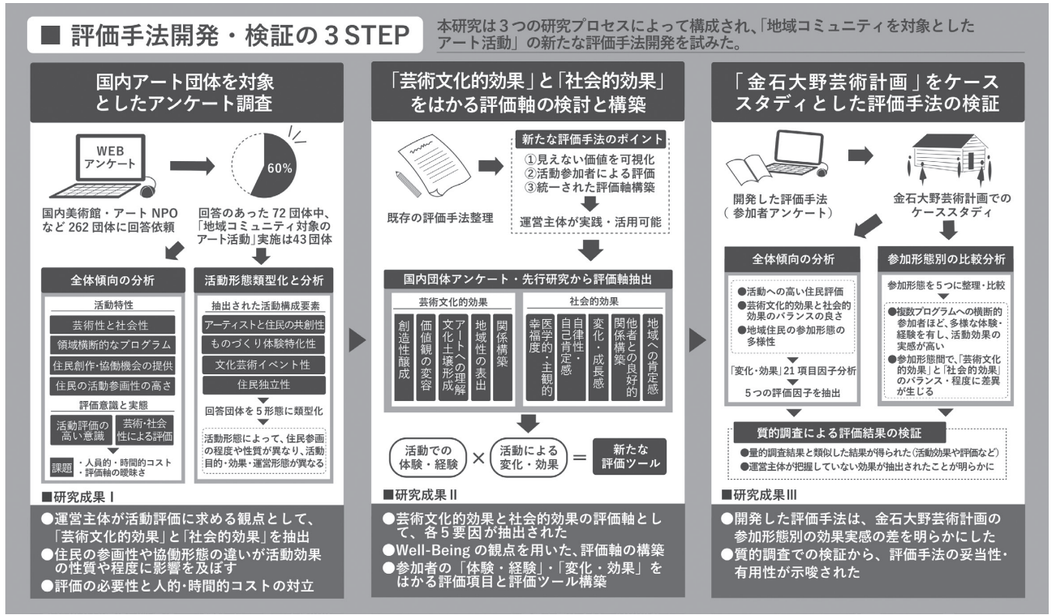


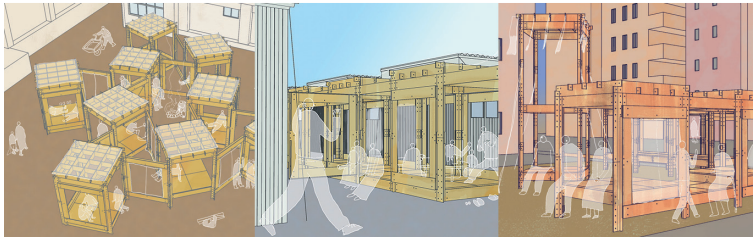
図2 研究プロセスのフローチャート

［主要参考文献］
林容子/進化するアートマネージメント/レイライン/2005年

災害時交流支援のためのセルフビルドによる仮設建築ユニットの提案

髙橋沙綾
建築デザインコース

災害によって命を落とし、多くの人が避難場所での不自由な生活を被る可能性の中に私たちは生きている。
過去の災害では身体に受ける直接被害の他に、避難生活の中での社会関係の変化を原因とする、孤立化によって関連死や孤独死が増え続けたという記録がある。
この研究では、避難生活での問題に対して交流による心の復興に着目し、避難生活の時間経過による生活の場の変化に応じた仮設型交流空間による解決策の提案を目的とする。
組み立てる部材を誰でも施工参加可能なユニット化することで、セルフビルドによって場を作ることを通した交流のきっかけを作る。ユニットを複数接続することで場を展開、壁を開いて繋げることで屋外に視線の遮りを作る。



空間デザイン／針葉樹構造用合板、ボルト、ナット、帆布、メッキパイプ／h2400×w1820×d1820mm

富山駅周辺エリアにおける滞留行動と空間特性の関係

公共交通機関利用者の待ち時間に着目して

串田優衣
建築デザインコース
建築計画・都市計画

1　研究の概要

地方都市の駅では待ち時間が発生しやすい。様々な利用背景をもつ多くの人にとって、ただ待つだけといった退屈な時間ではなく、より豊かで有意義な待ち時間を過ごせる空間計画が必要だと考える。

本研究ではそのための基礎的知見を得るために、富山駅を対象とし、公共交通機関利用者の待ち時間における「滞留行動」と「空間特性」の関係を明らかにすることを目的とする。本研究では4つの調査（①選択特性アンケート調査、②空間調査、③利用実態アンケート調査、④アクティビティ調査）を実施し、滞留行動と空間特性の関係について考察する。

2　調査

まず、富山駅に滞留していた公共交通機関利用者を対象とし、選択特性アンケート調査（N＝200）を行った。その結果、待ち時間における滞留空間として、駅内外にある様々な空間が選択されていることと、待ち時間における滞留空間の選択条件には待ち時間の長さといった利用者特性が関係していることを明らかにした。

次に、アンケートにて回答のあった滞留空間について、「建物構成要素」、「アクセス・位置関係」、「ストリートファニチャー」の視点から空間構成要素を把握し、整理した。その結果、「〈屋内空間－屋外空間〉」、「〈駅内施設－駅外施設〉」、「〈通路との隣接関係〉」によって6つのタイプに分類した。

続いて、その空間分類をもとに空間特性の異なる4つの空間を選定し、それぞれの空間にて利用実態アンケート調査（N=709）を行った。空間分類別の利用者属性、空間選択理由（図1）、空間評価から、空間ごとの待ち時間における選択特性を明らかにした。また、同じ空間であっても利用者属性によって選択特性に異なる傾向があることが分かった。

最後に、アクティビティ調査によって利用者の滞留行為（図2）や滞留位置、滞留姿勢、滞留時間などを把握し、空間ごとの待ち時間における滞留行為の特徴を明らかにした。どの空間においてもストリートファニチャーの位置に従った滞留行為が多くみられ、周辺環境によって滞留行為に差異が見られることが明らかとなった。

3　考察（富山駅周辺エリアにおける滞留行動と空間特性の関係）

本研究の調査結果より明らかとなった待ち時間における滞留行動には、以下3つの空間特性が影響を与えていると考えられる。

1つ目は「乗降場までの距離」である。待ち時間における滞留行動ではそのあとの乗降行為に意識が向けられており、乗降場までの距離や乗降場の視認性は大きな影響をもたらしていると考えられる。

2つ目は「ストリートファニチャー」である。ベンチや柱のある位置に滞留する、ベンチのある位置では滞留時間が長くなる、テーブルのある場所では行為が多様化するといった結果から、ストリートファニチャーの種類や配置が滞留行為に大きく影響すると考えられる。

3つ目は「周辺環境」である。屋外空間では屋内空間よりも周囲に気を使う行為である会話や電話、飲食などが多く見られたことから、周辺環境の滞留行為における許容力の高い空間では多様な行為が見られることが分かった。

また、滞留行動は人によるものであり、以下2つの利用者特性も影響を与えていると考えられる。

1つ目は「待ち時間の長さ」である。待ち時間が短い場合には乗降場までの距離といった「利便性」が重要視され、待ち時間が長い場合にはベンチの有無やその他複数の様々な項目で構成される「空間の質」が重要視される傾向が見られた。

2つ目は「空間認知度」である。富山駅を日常的に利用する人は様々な空間の中から自身の待ち時間における状況に合わせた過ごしやすい空間を選択することができるのに対し、富山駅を普段利用しない人は駅周辺エリアの滞留空間を認知していない人が多く、目の届く範囲にある空間を選択するといった特性が明らかになった。

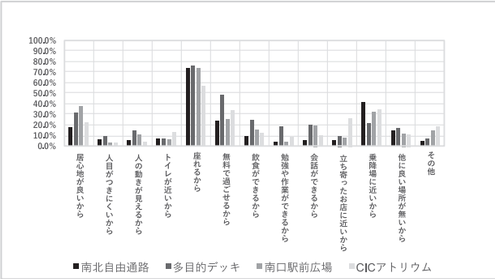


図1. 空間分類別の選択理由

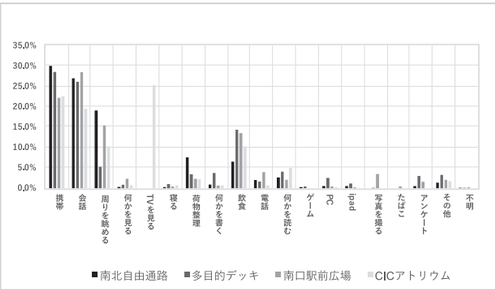


図2. 空間分類別の滞留行為

地域における親子の居場所とその特性について

居場所感の視点から

外石広美
建築デザインコース
建築計画、都市計画

1.研究の目的と方法

居場所感の視点から、地域の中で親子にとって居場所だと認知されている場所の特性と、そこを居場所だと感じる親の特性を明らかにすることで、地域における親子の居場所の実態を明らかにすること。富山市、高岡市の乳幼児健診にてアンケートを配布回収し、結果を分析する。

2.親子の居場所の有無と利用形態

居場所の有無と回答者の属性とでクロス集計表を作成し、カイ二乗検定を行った。その結果居場所の有無には子育ての経験や環境への慣れが関係していることが明らかになった。親子の居場所として挙げられた場所は「公園」67「実家・親戚宅」64「商業施設」23「子育て支援施設」12が主であった。

3.居場所感を構成している因子

居場所感尺度の回答を用いて因子分析を行ったところ、居場所感を構成している因子として【濃密】因子【のびのび】因子【刺激】因子の3つの因子があることが明らかになった。それぞれの因子の特徴は以下である。

【濃密】因子　自身と周囲の密な関係性があること
【のびのび】因子　周囲に気を遣うことなく、自身が自然体でいられること
【刺激】因子　多様な出会いや機会があること

表1　見出された因子

	【濃密】因子	【のびのび】因子	【刺激】因子
3.自分自身が大事にされる	**1**	-.08	-.08
1.プライベートな話が出来る人がいる	**.86**	.06	-.11
4.仲が良い人が集まる	**.79**	.04	-.06
2.子どもと共にあたたかく受け入れてくれる	**.71**	-.09	-.01
8.思い入れがある	**.47**	.28	.11
9.生活の一部になっている	**.36**	.28	.03
10.明るくなごやかな雰囲気	**.34**	.17	.25
6.周りを気にせず過ごせる	-.02	**.92**	-.13
5.自由に過ごせる	-.19	**.80**	.04
7.リラックスできる	.19	**.75**	-.09
19.無理をせず、ありのままの自分でいれる	.17	**.65**	-.03
16.もの思いにふけったり頭の中を整理できる	.18	**.42**	.17
11.新しい発見がある	-.24	.07	**.69**
15.いろいろな人に接することができる	.21	-.19	**.61**
12.色々な活動が出来る	-.24	.29	**.50**
20.家族以外のつながりができる	.16	-.21	**.47**
14.親である自分に自信が持てる	.38	-.03	**.42**
13.そこに親であること以外の役割がある	.26	.19	**.31**
因子間相関	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ
Ⅰ	—	.57	.52
Ⅱ		—	.40
Ⅲ			—

4.居場所感による親の類型化

そしてこの3つの因子を用いて回答者をクラスター分析を行ったところ、回答者を4つのグループに分類することが出来た。それぞれのグループの特徴は以下である。

第1クラスタ『不自由型』：居場所において周囲に気を遣わず自分自身が自然体でいられることが出来ない親のクラスタ
第2クラスタ『孤立型』：居場所において周囲との濃密な関係性を築いたり新しい多様な出会いや発見をすることがない親のクラスタ
第3クラスタ『豊潤型』：周囲との密な関係性がありかつ自分自身が自然体でいられ、さらに出会いや発見などの刺激もある、非常に高い居場所感を持つ親のクラスタ
第4クラスタ『安全型』：出会いや発見などの刺激よりも、周囲との密な関係性があり、かつその中で自分自身がリラックスもできることが居場所感を構成している親のクラスタ

5.まとめ

1）居場所の有無の違いは子育ての経験や環境への慣れが関係している
2）地域における親子の居場所は主に「公園」67「実家・親戚宅」64「商業施設」23「子育て支援施設」12が挙げられた
3）居場所感を構成している因子として【濃密】【のびのび】【刺激】の3つがある
4）人によって持つ居場所感は異なり、『不自由』型『孤立』型『豊潤』型『安定』型の4つのタイプに分けられる
5）「公園」「実家・親戚宅」「商業施設」「子育て支援施設」はそれぞれ異なる特性を持っており、異なる属性や育児状況を持つ人が居場所として選択している
6）人のタイプごとに属性や育児状況は異なり、それぞれ異なる居場所を持っている。